

議会議案第41号

生活に支障を来している鎌倉市内の交通渋滞と鉄道の混雑  
解消を国と神奈川県に強く求める意見書の提出について

生活に支障を来している鎌倉市内の交通渋滞と鉄道の混雑解消を国と  
神奈川県に強く求めることに関し、次のとおり意見書を提出する。

平成29年3月1日提出

提出者	鎌倉市議会議員	長	嶋	竜	弘	
同	同	上	上	畠	寛	弘
同	同	上	松	中	健	治

## 生活に支障を来している鎌倉市内の交通渋滞と鉄道の混雑解消を国と神奈川県に強く求める意見書

鎌倉市内への観光客の来訪による交通渋滞や鉄道の混雑は、もはや言うまでもなく長年の課題である。

住民は、土日祝日など外出を控えるのが当たり前の生活を強いられ、買い物や用事など生活のあらゆることを渋滞や電車の混雑を避けざるを得ない状況であり、子供たちや高齢者は危険な交通環境にさらされている。

鎌倉市の東日本大震災以前の10年間の入り込み観光客数の平均は約1,850万人であるが、平成25年は2,308万人と大幅に増加しており、この数値は過去最多であった平成4年の2,275万人を上回っており、その後も話題の映画、アニメ、ドラマ等の放映が相次いでおり、鎌倉の人気はとどまるところを知らない状況である。

さらに、圏央道の開通により、湘南地域への車両の流入量は約4割増加しているとのことで、国道134号線や県道藤沢鎌倉線を中心に、通過交通の車両がさらに増加しており、生活道路も含めて、目に見えて鎌倉市内の交通量は増加している。

江ノ島電鉄線はゴールデンウィーク時には、乗車するのに60～90分待ちは当たり前の状況で、最近では以前あまりなかった、紫陽花や紅葉等のレジャーシーズンにも乗車待ちが発生している。

JR横須賀線も混雑はひどく、狭いホームは人があふれてさばききれない状況で、前の列車の乗客がさばけるまで、次の列車がホームに入線できない状況も発生しており、ホームドアの設置もない中、乗降客が危険な状態にさらされている。

こういった中で、国は安倍首相が掲げるGDP600兆円の達成に向け、観光施策をその起爆剤にするために、訪日外国人観光客の拡大に向けた具体策をまとめる「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」を開き、訪日外国人観光客数の目標人数を倍増させ、平成32年に4,000万人、平成42年に6,000万人とすることを発表している。

この方針には大いに賛同するところであるが、鎌倉市内での「おもてなし」の受け入れ環境ができていない中、鎌倉市民にとっては生活環境がさらに悪化するのではないかと不安に駆られているところである。

このような状況は、もはや鎌倉市単独では対応できないことは明白で

あり、平成32年にオリンピック・パラリンピック開催が迫る中、平成28年に「歴史的風致維持向上計画」及び「日本遺産」に認定され、今後世界遺産登録を目指していることも勘案し、生活に支障を来している鎌倉市内の交通渋滞と鉄道の混雑解消のために尽力するよう、国と神奈川県に対し強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年3月3日

鎌 倉 市 議 会